

## 令和2年 新春講演会並びに賀詞交歓会

総務委員会

令和2年1月31日（金）、仙台ガーデンパレスにて一般社団法人東北地質調査業協会、一般社団法人全国さく井協会東北支部、一般社団法人斜面防災対策技術協会東北支部の3協会合同による恒例の新春講演会及び賀詞交歓会が開催されました。



講演される吉岡名誉教授

新春講演会では、高エネルギー加速器研究機構名誉教授の吉岡正和氏をお迎えし、「国際リニアコライダー ILC の概要と地域へのインパクト」と題してご講演を頂きました。講演では、ILCのポイントとして「① ILC の科学的意義」、「② ILC の社会的意義」、「③ グリーン ILC 構想、コミュニティプラン」以上の3項目を挙げられ、それぞれの効果について説明されました。①では、ILCで宇宙が誕生したビックバンを再現し、生成されたヒッグス粒子を詳しく調べる事により宇宙の仕組みや成立ちが解明され、更には宇宙の未来はどうなっていくのか？という事まで分かるという壮大なスケールのお話しを述べられました。

②及び③では候補地である北上山地に ILC の誘致が成功した場合、アジア初

となる「国際機関」が誕生する事になるだけではなく、その波及効果は「人材やコミュニティ形成、異分野にまで及ぶ」と述べられました。

人材については、「日本は、もはや先進国ではない」、「アジアの中でも見劣りする現状」をデータなどで分かり易く解説。今後、日本が進むべき道は「高度人材を増やして稼ぎを多くするしかない」という方向性を示された。そして、ILC が誘致されれば「世界中の高度人材が集う」事になり、日本も影響を受け高度人材が多くなり、結果、吉岡氏が示された方向性と一致すると述べられました。

コミュニティ形成については、北上候補地（一関市）のみならず、盛岡から仙台までの「コアゾーン」に研究者、技術者、家族、関連企業などが集まり、その人口規模は当初数千人から20年後は数万人に及ぶと考えられる。ILC とコアゾーンに位置する各都市が連携を取りながら「都市分散化」、「地域の活性化」を掲げ、ヨーロッパなどの研究開発・学術都市に見られるような「先導モデル計画」（コミュニティの総合管理という



奥山理事長の挨拶

考え)を取入れる事により、「既存の日本にはない魅力あるコミュニティーが形成できる」と述べられました。

異分野へのインパクトでは、太陽熱利用供給の企業や冷暖房をまかなうバイオマスボイラーなど手掛ける企業など新分野の参入を促し、一方で間伐された木材を関連施設の建設材料に有効利用するなど、異分野の活性化やグリーン構想について述べられました。

最後に、「以上の事から I L C 誘致における地域へのインパクト・波及効果は絶大である。」と述べられ、盛大な拍手を以って講演が終了致しました。



西尾企画部長の祝辞

本日の講演を拝聴し、多くの聴講者が期待感に胸を躍らせたであろうと思います。ぜひ I L C 誘致を実現して欲しいと強く思えた講演会でした。

引き続き行われた賀詞交歓会は、3協会総勢135名が参加し大変な賑わいとなりました。開会に際し、3協会を代表して当協会理事長の奥山清春より、「昨年の台風19号災害において地質調査業界の役割は大きかった。お礼を述べると共に、今後も国土強靱化、復興へ向けて

一致団結して取り組みたい。また品確法が成立し今年には成果を出していく年とし、更なる前進をしていきたい。」と力強いメッセージが発せられました。

続いて、来賓として御臨席頂きました、国土交通省東北地方整備局企画部長西尾崇氏より、「昨年の台風19号災害において皆様のご対応、ご支援に対し感謝いたします。直轄事業はもとより、県の権限代行による、道路・河川事業を手掛けていく。安全・安心なインフラを支え復旧・復興・台風災害に対し、皆さまと一緒に連携を取りながら進めていきたい。また皆様の働き方改革や人材育成などの取り組みに協力していきたい。」と大変ありがたい祝辞を頂きました。

その後、一般社団法人斜面防災対策技術協会東北支部長の熊谷茂一氏による乾杯の発声で宴席がスタートしました。

久々の再会に互いの近況を確認しあう姿や、恒例の東北各県から集まった会員による地酒の差し入れが宴をさらに盛り上げ、終始和やかな賀詞交歓会となり、新年の門出を祝いました。

締め括りは、一般社団法人全国さく井協会東北支部長の平山清重氏より、3協会員及其のご家族の健康と健勝を祈念した手締めを行い、盛会のうちにお開きとなりました。



盛況の賀詞交歓会